

研究開発実施状況報告書

住所 長野県長野市大字南長野字幅下 692-2
 管理機関名 長野県教育委員会
 代表者名 教育長 原山 隆一

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発の実施状況を、下記のとおり報告します。

記

1 事業の実施期間
 令和元年(2019年)5月30日(契約締結日)～ 令和2年(2020年)3月31日

2 指定校名・類型
 学校名 長野県白馬高等学校
 学校長名 臼井 彰一
 類型 地域魅力化型

3 研究開発名
 世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築

4 研究開発概要
 (1) PBL の実践を通じたカリキュラムとアセスメントの開発
 (2) 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬 SDGs ラボ」の設置
 (3) 地域と連携した授業を推進するためのコンソーシアムの設置

5 教育課程の特例の活用の有無
 無

6 管理機関の取組・支援体制

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会								↔				↔
コンソーシアム	↔	↔							↔			↔
校内実行委員会		↔		↔		↔		↔		↔		↔

- ①運営指導委員会：事業関連の取組の説明, 意見交換及び指導
 - 令和元年11月14日 第1回 (白馬高校会場)
 - 令和2年3月27日 第2回 (白馬高校会場)
- ②コンソーシアム担当者会議：事業計画の確認, 新しいカリキュラム開発のための意見交換。令和2年度に向けての情報提供
 - 平成31年4月8日 コンソーシアム構成団体個別協議 (白馬東急ホテル)
 - 平成31年4月23日 コンソーシアム構成団体個別協議 (シェラリゾート白馬)
 - 令和元年5月13日 コンソーシアム構成団体個別協議 (白馬インターナショナルスクール設立準備財団)

○令和元年5月17日 コンソーシアム構成団体個別協議（白馬村）

○令和元年12月26日 第1回コンソーシアム担当者会

○令和2年3月17日 第2回コンソーシアム担当者会

③カリキュラム開発等専門家の設置

柳田 優氏（非常勤職員として雇用）月12回程度本校にて勤務

④地域協働学習実施支援員の設置

しろうま荘 支配人 丸山俊郎 氏

(2) 実績の説明

①管理機関による管理方法

(ア) 運営指導委員会の開催

- ・取組の概要説明, 意見交換及び指導
- ・地域の現状を確認しながら, 今後の学校運営の在り方を考え問題提起を行う。また地域課題の共有を通して, カリキュラム開発のための提案・指導・助言を行う。
- ・運営指導委員会の構成（敬称略）
白戸 洋 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科・教授
岸 清美 白馬ロータリークラブ・会長, オーブス株式会社・代表取締役
平塚 茂雄 白馬山麓事務組合・総括兼支援局長
伊藤 まゆみ 白馬村議会・議員
中村 邦彦 長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課・指導主事

(イ) 「探究的な学び」研究会の開催（令和元年9月3日 長野県総合教育センター）

新学習指導要領の先行実施により, 本年度から「総合的な探究の時間」が実施されていることを受け, 各校の探究をさらに深めるため, 長野県内の高校の取組の実践を紹介し, 効果的なカリキュラム編成に資することを目的に実施した。

(ウ) SH校フォーラムの開催（令和元年11月15日 長野 TOIGOにて開催）

文部科学省事業指定（SGH, SSH 地域協働等）校の高等学校長を中心に構成する会議。分野を越えて, 各パイロット校がその研究開発の成果を相互に報告・共有し, カリキュラム研究開発の水準をさらに高めるとともに, 事業内容の向上を図った。

(エ) 地域協働学習実施支援員の配置

県の「カリキュラム編成支援事業」により, 地域協働学習実施支援員を配置した。

②コンソーシアム構築とコンソーシアムとの協働した取組

(ア) コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
松本大学総合経営学部	副学長・学部長 増尾 均
信州大学学術研究院教職支援センター	センター長 平野 吉直
白馬村	村長 下川 正剛
小谷村	村長 中村 義明
白馬観光開発株式会社	代表取締役社長 和田 寛
八方尾根開発株式会社	代表取締役 倉田 保緒
しろうま荘	支配人 丸山 俊郎
シェラリゾート白馬	代表取締役 金澤 邦隆
白馬東急ホテル	総支配人 吉野 良平
白馬インターナショナルスクール設立準備財団	代表理事 草本 朋子
長野県教育委員会	教育長 原山 隆一

(イ) コンソーシアム各団体の支援内容

- ・カリキュラム作成への協力
松本大学総合経営学部, 信州大学学術研究院教職支援センター
- ・地域とのコーディネーターとしての業務, 行政の立場からの学校支援活動
白馬村, 小谷村
- ・観光産業の実務的なことに関わる内容での支援
白馬観光開発株式会社, 八方尾根開発株式会社, しろうま荘, シェラリゾート白馬,

白馬東急ホテル

- ・教育全般に関わる内容での助言指導

白馬インターナショナルスクール設立準備財団，長野県教育委員会

③カリキュラム開発等専門家の取組

(ア) 白馬高校の地域性や学校のニーズに合わせ、以下の活動を行った。

- ・学校運営協議会，運営指導委員会，コンソーシアム担当者会に出席し，魅力的な授業づくりのための企画提案を行った。
- ・活動や発表の内容に関する評価の仕組みを策定し，各教科担当者に助言指導を行った。
- ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミットへ出席し，研修と情報交換を行い，教員への伝達を行った。

(イ) 課題解決委員会に出席，参画（毎週木曜日）

(ウ) 地域ボランティア活動を希望する白馬高校生に地域のボランティア活動にかかわる学びを企画した。

- 令和元年5月19日 「酒米田植え」
- 令和元年6月10日 「サイクルフェスタ」
- 令和元年9月21日 「車椅子スポーツ体験会」
- 令和元年10月12日 「南小学校PTA祭り」

④地域協働学習実施支援員の取組

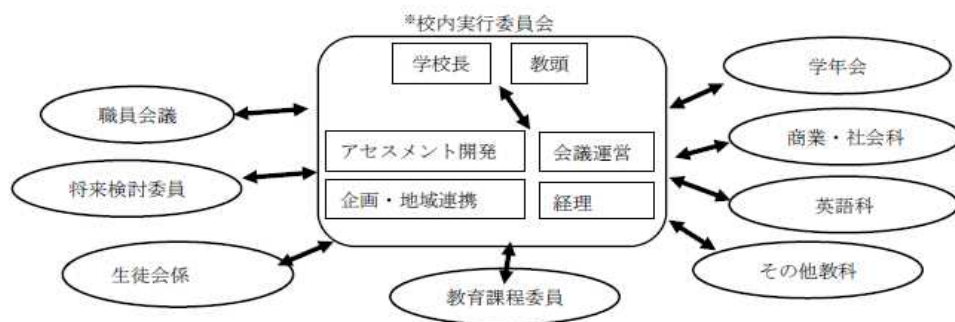
地域の人や団体と生徒とをつなげ，探究的な学習が深まる企画について助言を行った。特に，主に外国人を対象にした旅行者と白馬高校の教育課程をつなげた。

また，2年国際観光課「観光Ⅱ」の授業「高校生ホテル」の実施に向けて，ホテルとの連絡調整を行った。

- 平成31年4月18日 「スノーモンキーツアー演習」
- 令和元年6月7日 「松本城模擬ツアー演習」
- 令和元年6月27日 「松本城モニターツアー」
- 令和元年12月7日 「白馬村内ツアー」
- 令和元年12月3日 「事前学習」
- 令和元年12月7日8日 「高校生ホテル」

⑤校内体制の整備

(ア) 支援体制モデル図



(イ) 校内実行委員会設置

- ・学校長の指導の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な授業アンケート，学校生活アンケート，高校魅力化評価システムアンケートの結果を基に校内実行委員会で計画の修正改善を行った。

白井 彰一	学校長	全体統括
西澤 俊一	教頭	全体統括
西澤 いずみ	事務長	経理
浅井 勝巳	教諭 商業科	企画全般，コンソーシアム
藤井 岳大	教諭 地歴・公民科	アセスメント
中平 聖子	教諭 英語科	企画，地域連携（国際交流）
柳田 優	カリキュラム開発等専門家	地域連携，会議運営

(ウ) 活動内容

ワーキンググループ	活動内容
アセスメント開発	生徒の資質・能力を測定する指標の開発のための研究を推進
企画・地域連携	授業の全体構想と、地域連携についての調整
会議運営	運営指導委員会，校内実行委員会，コンソーシアム代表者会の設定
経理	経費についての管理，帳簿記入

(エ) 校内実行委員会に4つのワーキンググループを組織し活動した。

活動日程	活動内容
5月23日	SDGsの学習の計画
6月27日	カリキュラム開発学習会（講師 長野県立大学 大室 悦賀氏）
7月30日	SDGsの学習の振り返り及び高校生ホテル実習の計画
9月12日	SDGsラボの取組と授業への展開について
11月21日	次年度に向けてコンソーシアムとの協働授業について
1月23日	次年度に向けてアセスメントについて
3月17日	コンソーシアム構成団体の方とワークショップ，来年度の授業プランの企画

⑥事業終了後の自走を見据えた取組について

(ア) 予算措置

地域協働学習実施支援員やコンソーシアム開催等，事業継続のための予算措置を図る。

(イ) 「SH校フォーラム」，「探究的な学び」への参加

文部科学省事業指定（SGH, SSH, 地域協働等）校での研究開発の成果を，事業終了後も，他校にも広く紹介し，県内の高校の探究的な学びの質の向上に取り組む。

(ウ) コンソーシアムの継続的な開催

地域課題を共有した地域の人々，企業との継続した協働体制を構築することにより，引き続き地域課題を解決し，探究的な学びが深まる魅力的なカリキュラムや評価の仕組みを構築する。

(エ) 運営協議会開催

運営指導委員会の業務を引き継ぎ，当事業の研究開発の在り方を検討する。

(オ) 校内実行委員会の活動

教育課程，評価の在り方を検討する。地域と協働した取り組みを充実させる。

⑦高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和元年度に新たに締結したものはない。

7 主な研究開発の実績報告

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「観光Ⅱ」における教科横断型PBL	←		→			←					→	
白馬SDGsラボの設立・ワークショップ開催			←	→		←	→			←	→	
コンソーシアムの構成団体との協働事業			↔					←	→			

(2) 研究を通して実証する仮説

仮説 1 : 「学際的な教科横断型の学びと PBL が両立したカリキュラムを開発し、生徒が主体的に学びたくなる環境の整備を行うことで、探究的な学びが深まる。」

仮説 2 : 「生徒と地域の人々が SDGs をテーマに学び、実践活動を行う『白馬 SDGs ラボ』の設置と SDGs ワークショップの開催、及び SDGs の目標 13『気候変動を軽減させる取組』の実践をすることが、探究的な学びの実現につながる。」

仮説 3 : 「地域をフィールドにした学習活動を推進するための『白馬コンソーシアム』の設置により、本プログラムに対する包括的な支援体制を組むことによって、生徒の探究的な学びを深めることができる。」

(3) 実績の証明

①PBL 授業実践 1 「高校生レストラン」での教科横断的な取組

- ・活動の前提となる仮説（仮説 1，仮説 3 に関わる項目）
- ・授業のねらい
 - ア：PBL の実践を通してカリキュラム開発とアセスメント開発を実施
 - イ：国際観光科 2 年「観光Ⅱ」を中心とした教科横断型 PBL の実証実験事業
- ・本質的な問い：「白馬のグリーンシーズンの魅力を伝えるにはどのようにしたらよいか。」
- ・内 容：白馬東急ホテルの 60 周年記念メニューの開発
- ・評価項目：チームワーク，状況応対力，コミュニケーション力，任務遂行力等
- ・対象授業：観光Ⅱ，観光コミュニケーション英語，家庭総合
- ・実施内容：関連団体 「白馬東急ホテル」におけるレストラン接客業務全般
- ・実施日：令和元年 6 月 22 日（土）
- ・成 果：
 - ・一般の来場者 50 名参加。
 - ・地域の産業（観光）を生かした、特色学科に理想的な探究的な学びとなった。
 - ・レストラン業務全般にわたり、様々な業務とかがかわることで、食文化を中心とした学びの領域が広がり、学校での学びが教科横断的な取組になった。
 - ・実際の現場において学びの場を設定することにより、生徒が学校で学んだことが直接実社会と関連付けられ、学びの定着が深まった。
 - ・「仮説 1」「仮説 3」は本事業を通じて実証可能である。生徒の興味関心の高まりとともに、次年度以降アセスメントを確立しさらに実証をする予定。
- ・課 題：
 - ・思考・判断・表現等生徒の活動面のアセスメントを行い、生徒の次なる活動へのモチベーションを高める工夫を行う。
 - ・教科横断的な授業の連携や教育課程上の連携を図る必要がある。例えば、家庭総合では 1 年で食物、2 年で被服内容を中心に授業を行っているが 2 年時に行う高校生ホテルとの連携を図るためには、2 年に食物を学ぶなどの対応を検討する。

②PBL 授業実践 2 「高校生ホテル」での教科横断的な取組

- ・活動の前提となる仮説（仮説 1，仮説 3 に関わる項目）
- ・授業のねらい
 - ア：PBL の実践を通してのカリキュラム開発，アセスメント開発
 - イ：国際観光科 2 年「観光Ⅱ」を中心に教科横断型 PBL の実証実験事業
- ・本質的な問い：「お客様が満足するサービスとはどのようなものか。」
- ・内 容：
 - ・大きな規模のホテルを借りて 1 泊 2 日のホテル業務を実習する。
 - ・白馬地域の体験ツアーを企画し、ガイドを日本語・英語で実施する。
- ・評価項目：顧客満足度，主体的な取組，他者への気配り，新たな問題への気づき
- ・対象授業：観光Ⅱ，観光コミュニケーション英語，家庭総合
- ・連携企業：ホテルシェラリゾート白馬
- ・実施日：令和元年 12 月 7 日（土），8 日（日）

- ・「観光Ⅱ」のカリキュラムにおける「高校生ホテル」の位置づけ

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクト説明, 班分け ○白馬東急ホテル施設見学 ○コース料理の構成調査 ○和食, 洋食, 地域食材, 旬の食材調べ ○コース料理を提案, 料理の試作, 試食 ○レストランサービスの基本について ○サービス接遇レーニング ○メニューの説明事項の確認 ○リハーサル ●高校生レストラン
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○シェラリゾート白馬施設見 ○ホテルのサービスについての学習 ○テーブルマナーとレストランサービス実習 ○ホテルの仕事（フロント, レストラン, 客室）についての学習 ○宿泊プランの学習, 宿泊プラン作り ○サービスの心構え（サービスをする上で大事にしていること） ○ホテルでのサービス接遇トレーニング（フロント, レストラン, 客室） ●高校生ホテル
3 学期	○宿泊業, ホテルの歴史 ○サービスの意義について

- ・ 成 果 :
 - ・ 白馬ツアー参加者 18 名, ホテル宿泊者 109 名が参加。
 - ・ ツアーガイドとホテル業務を「英語」「観光Ⅱ」の複数の教科から学際的に学び, 地域社会の観光産業を利用した実践的な授業となった。さらに, 学びの目的が明確になった。
 - ・ 県内外から訪れた一般宿泊客より, 高校生が主体的に学ぶ本実習プログラムを高く評価していただいた。単なる実習としてでなく, 職業人としての責任を果たそうとする高校生のもてなしを受け, リゾートホテルでの有意義な時間を過ごすことができた, というコメントを多くの宿泊客からいただいた。
- ・ 課 題 :
 - ・ 最上級のサービス実務を実践的に学ぶことができた。この貴重な学びをさらに深い知的探究につなげていくことが, 次年度以降の課題である。
 - ・ 「高校生ホテル」は, 地域社会を学びの場とし, 地域の課題を直接体験できる貴重な機会になっている。普段の学校の教科横断的なカリキュラムとホテル実習との間に, より緊密な体系を構想することが今後の課題といえる。
 - ・ 仮説 1 仮説 2 とも, この事業を通じて実証できる。特に, 本事業は, コンソーシアムの中から生まれてきた活動であり, コンソーシアムが機能していることが表れている。高校生が地域の産業とかかわることを, 積極的に奨励している環境が醸成されつつあり, 次年度はアセスメントを充実させたい。

③ 3 年国際観光科「グローバル観光」

- ・ 活動の前提となる仮説（仮説 1, 仮説 3 に関わる項目）
- ・ 授業の狙い
 - ア：2 年「観光Ⅱ」の授業内容をさらに発展させる PBL を用いたカリキュラム編成
 - イ：地域との産業と世界との比較を通して相対的な学びを実現する。
- ・ 本質的な問い：「白馬を豊かにするにはどのようなことか。」
- ・ 評価項目：課題を読み解く力, 主体的に関わる力, 協働して取り組む態度等
- ・ 内 容：「白馬の地域性を生かした新たな観光産業の創出」
- ・ 授業目標： 地域課題を構造化し解決策を考えるスキルを獲得する。

・授業内容

	授業内容
1 学期	<p><経済波及効果について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・白馬村の地域経済循環について 講師 藤本元太 副村長 ・産業連関表作成のためのアンケート調査 ・宿泊施設を中心に聞き取り調査 ・聞き取り調査結果のまとめ ・白馬村観光統計の分析
2 学期	<p><調べ学習 1：インバウンドの光と影を調べてまとめる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外資系ホテルが日本に多く進出するのはなぜか ・白馬地区の地価の変動はどのような影響を与えるか ・観光客の増加によってどのような地域に与えるマイナスの影響何か <p><調べ学習 2：RESAS を使って白馬と他の地域を比較する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都, ニセコとの比較 ・産業の構造
3 学期	<p><既存資料調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・白馬村に外国人旅行者が多く来るようになった理由 ・ビジットジャパンキャンペーンについて

- ・ 成 果：
 - ・白馬と他の地域を相対的に考えることにより、白馬への理解の浸透が進んだ。
 - ・統計資料を根拠に発表させ、インタビューを通してコミュニケーションを図ることで、様々な学びの場面が生まれた。
 - ・学んだ成果をはくばフォーラムで発表し、単なる調べ学習で終わることなく、学びを生かす場を作ることができた。
- ・ 課 題：
 - ・次年度では、生徒の発表や調査活動の結果を適切に評価し、生徒の振り返りが次の学びの飛躍につながるアセスメント方法を開発したい。
 - ・探究のしがいのあるテーマ設定により、生徒の活動の中身が変化した。当事者の問題として、真剣に考えることができた。

④ 3年総合的な学習の時間（SDGs を活用した探究学習の実践）

- ・ 活動の前提となる仮説（仮説 1， 仮説 2 に関わる項目）
- ・ 内 容：地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容を総合的な学習の時間において実践した。
- ・ 評価項目：学びに向かう姿勢、主体的に課題解決に取り組む態度、問題を読み解く力
- ・ 授業内容
 - 4 月 23 日 グローバル講演会 「パタゴニアが考える企業の責任」 パタゴニア日本支社・支社長 辻井隆行 氏
 - 6 月 5 日 総合的な学習の時間 SDGs ワークショップ
 - 7 月 5 日～7 日 文化祭で SDGs をテーマにした展示
 - 10 月 1 日～3 日 総合的な学習の時間 SDGs のワークショップ
 - 11 月 1 日 はくばフォーラムでの学習発表
- ・ 成 果：
 - ・既存の授業と学校行事に関連付けを行い学習内容を発表としてまとめた。
 - ・年間を通じて SDGs について授業や学校行事で取り扱うことで、生徒は SDGs を身近に感じ関心が高まった。
 - ・様々なカテゴリーのある SDGs であるが、様々な教科を通して
 - ・大学の A0 入試や推薦試験の事前のレポート課題や面接に直接かかわる活動となり、生徒の学ぶ動機づけにもなった。
 - ・SDGs のテーマを各教科でか使うことにより、概念が定着し、学際的な学びにつながった。

⑤ 「白馬 SDGs ラボ」の取組

- ・ 活動の前提となる仮説（仮説 2， 仮説 3 に関わる項目）
- ・ 内 容：地域の有志とともに課題解決学習を行う「白馬 SDGs ラボ」に生徒が参加し、地域

の大人の力を得ながら課外活動としての学びを行った。その活動の一例として気候変動について学習した生徒が、さらに気候変動の危機を多くの人に理解をしてもらうための行動として、「気候変動マーチ in 白馬」を企画し、約 120 名の参加者を集めた。

- ・評価項目：企画力，構成力，運用力
- ・実施日：「気候変動マーチ in 白馬」 令和元年 9 月 20 日（金）
- ・成果：
 - ・一般市民の白馬村内ツアー参加者 18 名，ホテル宿泊者一般客 109 名が参加。
 - ・マーチの後に，白馬村役場で白馬村長に対して気候変動非常事態宣言についての PR 活動を行った。
 - ・気候変動難民救済のためのチャリティーバザー「Haction (Hakuba+Action)」を企画し，15 万円の売上金を国連 UNHCR 協会に寄付した。
 - ・高校生が環境問題に取り組むエコ活動の成果を競う AEON 主催「eco-1 グランプリ」に出場し，文部科学大臣賞を受賞した。

⑥その他学校と地域との連携した取組例

4 月 23 日	グローバル講演会（学校行事・地域への公開）
5 月 18 日	気候変動&地域経済シンポジウム（地域の団体が主催，生徒が参加） 基調講演「持続可能で幸せなまちをつくる」環境ジャーナリスト枝廣淳子 氏
6 月 4 日	Hakuba SDGs Lab キックオフミーティング（地域の団体が主催，生徒参加）
6 月 5 日	3 年生 第 1 回 SDGs 探究学習（総合的な学習の時間） SDGs について知るワークショップ 講師 環境アクティビスト 清水イアン 氏
7 月 14 日	第 2 回 Hakuba SDGs Lab ラボ（地域の団体が主催，生徒参加） Signs From Nature 上映会
9 月 20 日	グローバル気候変動マーチ in 白馬（生徒が主催，地域の人が参加）
11 月 15 日	2 年生 SDGs 探究学習（総合的な探究の時間・有志生徒の企画） SDGs の基礎講話 講師 環境アクティビスト 清水イアン 氏
11 月 21 日	第 3 回 Hakuba SDGs Lab（地域の団体が主催，生徒参加） 24Hours of Reality in Hakuba
11 月 30 日	Haction（生徒が主催，地域の人が参加）
12 月 4 日	2 年生 SDGs 探究学習（総合的な探究の時間・有志生徒の企画） SDGs カードゲーム 講師 2030 SDGs ファシリテーター 関口守 氏 澤西光子 氏
12 月 7 日	イオン eco-1 グランプリ（生徒が学びの成果を発表） 文部科学大臣賞
2 月 2 日	Haction 第 2 回（生徒と地域の団体が主催，地域の人が参加） #Save Our Snow-気候マーチ in 白馬岩岳スノーフィールド
1 月 29 日	第 4 回 Hakuba SDGs Lab（地域の団体が主催，生徒参加） 地域での SDGs に関わる活動の事例発表
2 月 5 日	国連 UNHCR 協会へ寄付
2 月 26 日	2 年生 SDGs 探究学習（総合的な探究の時間・有志生徒の企画） 断熱学習 ファシリテーター 東北芸術工科大学教授 竹内昌義 氏

⑦生徒のボランティア活動へのコーディネート実績

- 5 月 19 日 「酒米田植え」
長野県産の酒米を地域の人たちと生育させ，地域の名産品にする取組に参加。
- 6 月 10 日 「サイクリングイベント」
グリーンシーズンの誘客のためのサイクリングイベント。雄大な北アルプスを眺めながら，村内の名所を最大限に生かしたイベントにおいて，白馬のグルメをアピールした。
- 7 月 13 日～8 月 31 日 「観光客のもてなし」
グリーンシーズンの誘客のための「白馬花三昧」のイベントに合わせて，観光客が到着する白馬駅での歓迎イベントに参加。
- 8 月 31 日，9 月 1 日 「白馬村民運動会」 参加し場内アナウンスや会場設営。

○9月21日 「スポーツ大会企画」

「白馬村を車いすスポーツのメッカにしよう」というコンセプトのもとで行われるイベントに参加した。車いすソフトボール大会を開催し、運営スタッフとして参加した。

○10月12日 「PTA活動支援」

白馬南小学校PTA祭りにボランティアスタッフとして参加した。

○1月23日, 30日 「岩岳夜祭」

白馬に来る外国人旅行者のアフタースキーのイベントとして行われている岩岳夜祭に神社の参拝のレクチャーを英語で行うボランティアとして参加した。

○2月1日, 2日 「アンケート調査」

日本交通公社の白馬村来訪者調査で外国人旅行者にアンケート調査を行う調査員として参加した。

(4) 成果の普及方法・実績について

- ・本校生徒、職員、関係者への成果の普及として、11月に白馬フォーラムを開催し、本校生徒、地域の人に向けた各種取組内容についての成果発表を行った。
- ・他校との情報共有として、12月14日、15日に長野県高校生「私のプロジェクト」発表大会/長野県 Summit へ参加し、自主的に活動をする4つのプロジェクトの発表を行った。

8 目標の進捗状況、成果、評価

仮説1：「学際的な教科横断型の学びとPBLが両立したカリキュラムを開発し、生徒が主体的に学びたい環境の整備を行うことで、探究的な学びが深まる。」に関する項目

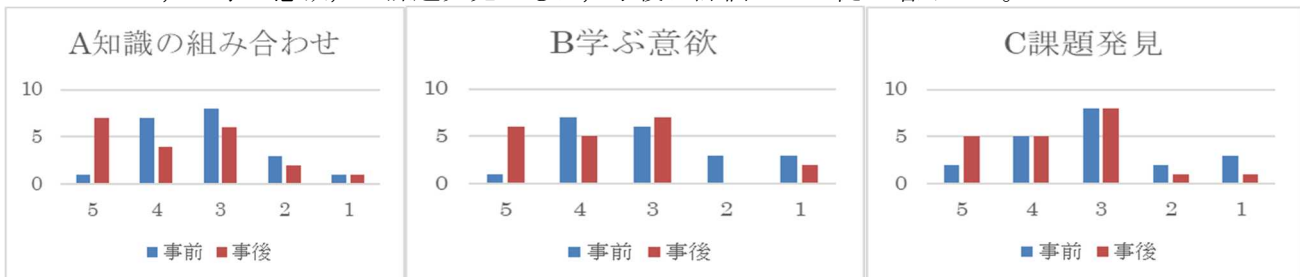
(1) 3年 国際観光科 総合的な学習の時間 (SDGsに関する探究学習)

①生徒に付けた力

- ・知っていること、学んだことを組み合わせて新たなことを考えたり、作り出したりすることができる。
- ・学ぶことに意味や意義、やりがい、面白さ、楽しさを見出し、自ら進んで学習を進めることができる。
- ・現在起こっている状況を構造化することができ、どのような課題があるかを見つけることができる。

②成果・評価

本授業では、社会課題について学ぶことで課題解決能力を育成することを目的とした。SDGsをテーマに現状を調べ、まとめて、発表することを行った。年間の学習の始めと終わりに、5段階による自己評価アンケートをgoogleフォームで実施した。その結果、A知識の組み合わせ、B学ぶ意欲、C課題発見ともに、事後に評価5の生徒が増加した。



(2) 観光Ⅱを中心にした教科横断型PBL (高校生レストラン,高校生ホテル)

①年間を通しての目標

「お客さんが満足するサービスができるようになるために、実務での実習を通して学ぶ。」

②成果・評価

1) 高校生ホテルお客様アンケートの結果

○フロント・客室案内について

- ・案内や説明が十分だった(89.2%)
- ・案内や説明に不足があった(10.8%)

○改善についてのコメント

- ・本職と比較するともう少し勉強,研修が必要だが,真剣な思いが伝わってきた。
- ・もう少し大きな声ではっきりと話すとうい。

○レストランサービスについて

- ・丁寧なサービスだった (64.2%)
- ・不安のあるサービスだった (35.8%)

2) まとめ

アンケートの結果から,お客様が満足するサービスを提供できたといえる。宿泊者の属性も保護者, 教育関係者以外の一般のお客さんがほとんどであったため, 通常のホテルサービスとの比較した回答が得られた。

高校生ホテル後の振り返りの際に, アンケートに書かれたコメントを生徒が読み, 自分たちの実習を客観的に振り返ることができた。その際に, お客さんからの温かいコメント, 改善ポイントを真摯に受け止め今後に向けてどのような改善が必要かを生徒は考えていた。

仮説 2 : 「生徒と地域の人々が SDGs をテーマに学び, 実践活動を行う『白馬 SDGs ラボ』の設置と SDGs ワークショップの開催, 及び SDGs の目標 13『気候変動を軽減させる取組』の実践をすることが, 探究的な学びの実現につながる。」に関する項目

(1) 「白馬 SDGs ラボ」 (有志による課外活動)

①実施内容

- ・地域の有志により「白馬 SDGs ラボ」を設置し, 地域の人と生徒が協働して行うワークショップを4回実施した。
- ・ラボに参加した有志の生徒が, 気候変動を軽減する取組の実践を地域の人々と協力して2回実施した。

②成果・評価

- ・白馬村が12月4日, 長野県が12月6日にそれぞれ「気候非常事態宣言」を発令した。地域の有志の人々が生徒の身近ことから社会問題に関心を持たせ, 支援してくれたことにより社会の動きと大きく関連した学びを実現できた。
- ・地域で環境問題の啓発を実践する生徒が, 学校内でも啓発活動を行い, SDGs に関するワークショップを企画した。講師の選定, 連絡調整を教員とともにを行い, 2年「総合的な学習の時間」で11月15日に講演会, 12月4日にワークショップを実施し, この中で, 主体的に他の生徒に活動内容を発表した。

仮説 3 : 「地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬コンソーシアム」の設置により, 本プログラムに対する包括的な支援体制を組むことによって, 生徒の探究的な学びを深めることができる。」に関する項目

(1) 「白馬コンソーシアム」によるカリキュラム開発

①実施内容

- ・コンソーシアム構成団体の特徴を生かし「高校生レストラン」「高校生ホテル」3年国際観光科「グローバル観光」の3つの授業と地域での学びの場「白馬 SDGs ラボ」の実現を支援した。
- ・各活動の後にコンソーシアムの代表者会を実施し, 活動内容の報告と各団体の地域と本校の教育活動に対する率直な考えを共有した。(次回は来年度の授業内容について協議をする予定)

②成果・評価

- ・実習後の観光に関する知識を学ぶ授業では, 実習での実体験と机上での学びを関連付けて振り返ることができた。
- ・「地域関連調査と地域経済循環に関わる学習」において, 調査活動を通じて地域の現状を知るだけでなく, 経済波及効果について自らの体験から実感を伴った学習となった。例えば, 「白馬村観光統計」の資料と自ら聞き込み調査した実際のデータとを比較しながら, 自分の村のことを関連付けをするようになるなど, 地域資源が学びのフィールドとなることで, 具体性を伴った学びを体験することができた。

9 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 教科横断型 PBL 授業における「育てたい生徒観」や「生徒につけたいスキル」
 - ・「高校生レストラン」や「高校生ホテル」では、生徒がサービス実務を行うことに強い関心を示し、この点では地域を利用した教科横断型の授業が効果的であったと言える。
 - ・「創造的思考スキル」や「協働スキル」、あるいは「コミュニケーションスキル」のある生徒像を意識して授業を展開したが、検証に時間を十分に割くことができなかった。次年度においては、プロジェクトでつけたいスキルをあらかじめ明確にした上で、それぞれの活動と、生徒が獲得したスキルとの関連性や効果の検証を行いたい。
- (2) 探究学習に対する指導者の指導の向上
 - ・校外での実習では、探究的な学びや、PBL を行うための授業の設計、授業内容、教材、評価システムなど新たに構築するものが増加した。また、実習先でもあるコンソーシアム委員との授業のための打ち合わせに時間がかかった。校内体制を整備し、役割を分担しながら推進していきたい。
 - ・次年度は、実行委員会において、探究学習、PBL のテンプレート、共通の教材やルーブリックを利用した評価システムの開発を行い、授業のさらなる充実を図る。さらに、職員研修を通して、校内に対しても情報を共有したい。
- (3) 検証の仕組みの構築
 - ・本年の事業計画の主な目標は、これまで行ってきた事業の展開と整理であった。次年度はそれぞれの事業のアセスメントの仕組みを研究対象とする。アセスメント対象としては、在校生だけでなく、白馬での学びが卒業後にどのような意味をもっているかに注目し、卒業生に対して追跡調査することも検討したい。
- (4) 成果の普及の方法・実績について
 - ・本校生徒、職員、関係者への成果の普及として、11月に白馬フォーラムを開催し、本校生徒、地域の人に向けた各種取組内容についての発表を行った。次年度においても、授業の成果発表の場として開催していきたい。
- (5) 事業の全体像の把握
 - ・それぞれの担当職員が自分の担当する授業については熱心に講義しているものの、事業の拡大によって事業の全体像の中における自分の担当のあり方を把握しにくくなっている。校内での職員向けの研修会を行うことによって情報交換を図り、すべての教科が関連しあうような教育課程編成を行いたい。

【担当者】

担当課	長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課	T E L	026-235-7435
氏 名	中村 邦彦	F A X	026-235-7495
職 名	指導主事	e-mail	kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp

<添付資料> 目標設定シート